

出生前診断及び第三者を介した生殖補助医療をめぐる問題を取り上げた。

最後に(3)として、宗教者には、①自らの信仰と教えの上から、科学技術の背後にある人間の欲望の行き過ぎを批判し警告する社会啓発的な役割と、②たすけを求めている個人に寄り添い、その個人が自ら主体的に生きる決断に力を添える臨床的な役割とがあり、この困難な二正面作戦を進めていかなければならないことを指摘した。

第21回世界宗教史会議 (IAHR) に参加・発表

標記大会が、8月23日から29日にかけてエアフルト大学(ドイツ)で開催され、本学からも5名が参加、発表した。

大会は5年ごとの開催で、今回は世界から約1,300名、日本から約90名が参加した。大会テーマは、Dynamics of Religion: Past and Present (宗教のダイナミクス: 過去と現在)。



23日は基調講演のあと開会式とレセプションがあり、24日～28日にかけて研究発表があり、30日の閉会式では、今回の大会についてのまとめがあった。なお、役員の変更があり、新しい会長と役員が発表された。なお、26日の大会実行委員会企画ツアーにも多くの参加者があった。

26日の大会実行委員会企画ツアーにも多くの参加者があった。



研究発表は、2～5名で構成するパネルの中で行われ、各パネルは2時間。午前中に1つ、午後に2つのパネルでの発表となった。また、11時半からは4つの基調講演が同時進行であり、参加者は

関心のある基調講演を聴いた。

エアフルトは、ドイツ中央部の町でチューリンゲン州の州都である。人口は約20万人。エルフルトとも呼ばれる。マックス・ウェーバーが

生まれた土地であり、宗教改革を行ったマルティン・ルターは、1501年から1505年にエアフルト大学で学び、修道



院に入り、修道僧となった。1392年に設立されたエアフルト大学は、19世紀に一旦閉鎖されたものの1994年に再建された。

本学からの発表は以下の通り。()内はパネル名(発表順)。
Horiuchi Midori: A Unique Expression of Doctrine: The Case of the Tenrikyo Congo Brazzaville Church (Global Spread)

Okada Masahiko: The Development of Buddhist Science in Nineteenth Century Japan (Buddhism, Science, and Ideology in Modern Japan)

Sawai Yoshitsugu: Izutsu's Semantic Perspectives of Indian Philosophy (Toshihiko Izutsu and Oriental Religious Thought)

Juan José López Pazos: Language and Its Meaning in Izutsu's Oriental Philosophy (Toshihiko Izutsu and Oriental Religious Thought)

Sawai Jiro: Scriptures and Their Restoration: A Case Study of Tenrikyo (The Dynamics of East Asian New Religions)

(堀内記)

第74回日本宗教学会で発表

標記学術大会が9月5日、6日に創価大学で開催された。両日の研究発表に先立ち、4日午後には、大会実行委員会主催の公開シンポジウム「宗教の未来 宗教学の未来」が開催された。アメリカ・ジョージタウン大学のホセ・カサノヴァ教授が「グローバルな世俗化とグローバルな宗教諸派の共生、絡み合う二つの道」、イギリス・ウォーリック大学のジェームズ・バックフォード名誉教授が「グローバル化時代における宗教と宗教研究の社会的パースペクティブ」と題して、基調講演を行った。これに対して、伊達聖伸(上智大学准教授)、櫻井義秀(北海道大学教授)の両氏がコメントした。

本学からの発表は以下の通り(部会順)。

澤井義次: 井筒俊彦のオットー理解とその特徴

渡辺優: 神秘家の「願ひ désir」—ミシェル・ド・セルターに寄せて—

岡田正彦: 排仏から求法へ—歴史的批判主義と「仏教史」—

澤井治郎: 天理教原典の公刊と復元

堀内みどり: 天理教の海外布教についての一考察—中国へ渡つた女性たち—

(堀内記)

**『グローバル天理』
合本のご案内**

これまで出版された『グローバル天理』の合本を頒布しています。これは2000年から2014年までの各1年分(12号分)を1冊にまとめ、簡易製本したものです(頒価は200円)。ただし、欠号がありますのでその際はご了承願います。

研究所事務室にお越しの際は、必ず事前に電話、FAX、もしくはEメールでご連絡ください。なお、郵送による頒布はお断りさせていただいております。